

はるのことわりに～春分覚書 2023年3月21日

一葉 二葉 三葉 四葉

しょう

と書いて ふと 止まった

そう、シヨウ、なのだ。

シヨウが、モンダイ、なのだ。

シヨウをどうするか？

仕様

試用

私用

枝葉末節にこだわってはいは  
使用価値を十全に表現しきることはできぬ

吾はシヨウにこだわることにした

左様

シヨウに徹底こだわるのだ

飼養にも止揚にも大いにこだわり  
使用価値と市場価値を高めて  
死様がないまでに シヨウを生きるのだ

一葉 二葉 三葉 四葉

一様 二様 三様 四様

シヨウという語に

イヨウにこだわり

クヨウしなければ

是心を止揚できぬ

供養も異様も使用も全て

おまえさんのこころ次第

どうにでもなる

が

どうにもならぬ

そんな想いの沸騰に

春分け 春分のこの日

思い出すものがあつた

わが父は三月三日生まれ

吾が盟友大重潤一郎は三月九日生まれ

わが義父は三月二十一日生まれ

そして吾は 三月二十日生まれである

父も義父も大重もすでにこの世にはいない

この世のシヨウを越えたのだ

だが 彼らの委託を吾は享けている

また

石牟礼道子さんは三月十一日生まれ

遠藤周作さんは三月二十七日生まれ

そして吾は その間の三月二十日生まれである

その石牟礼さんや遠藤さんの委託は多くの人が受けている

それをどう受けとめてシヨウするか

春分の前の日

彼岸の中日の前の日

その日

一九二五年三月二十日に梅原猛さんも生まれた

一九五〇年三月二十日にわが友後藤人基君も生まれた

梅の肚の武と 伍島の人基礎君が

どのようなあらみたまとにぎみたまをシヨウしたか、するか、

じつは、  
三月二十日は、占星術では一年最後の日となる。  
だから、その日の生まれは、一年の戸締まりをしなければならぬ。  
最後の最期の引導を渡さねばならぬ。

春分という 春の事分けの 大いなる節目の前に

それは けっこうしんどいシヨウである と言われている  
新しい扉を開くには希望と勇気が要るが  
最後の扉を閉めるのは諦めと覚悟が要る

収支決算

バランスシートの仕様を確認せねばならぬから

吾らはどれだけの負債を負っているか？  
どこに どのような 損失をもたらしたか？  
そもそも その損失とは 負債とは どのようにして発生したのか？  
その帳尻をきっちりと始末して 新しい扉を開く用意をせねばならぬ

最後の最期の後始末

これはけっこうたいへんです  
わたしにはさいごのとびらをしめるちからなどありません

しかし 犬も歩けば棒に当たる 捕らぬ狸の皮算用の  
犬棒＝トラタヌ人生をあるいてきた吾は  
自他ともに認めるムテッポウだから  
何をしでかすかわからぬ  
何をシヨウするか分らん

最後の最期に何をするか

何をしでかすか  
そんなことはいっぼうめっぼうさんぼうしぼうも判らぬが  
しかし最後の最期 バク転三回を決めておきたい

一つバク転 天のため  
一つバク転 地のため

一つバク転 人のため

一九八六年三月二十一日

その年の彼岸の中日の朝

吾は七面山の山頂で 富士山の真芯から昇ってくる朝日を見た

そして 富士山と朝日を包み込む大円周に虹を見た

生涯に一度だけ

富士山と朝日を包む大円周の虹は

その朝 吾が心をも体をも包み

吾は魔をほどくことができた

魔を脱することができた

真のマヌケ 魔抜け となった

そのマヌケが真貫けとなって 春の事分けの朝にしたためる

遺書ではないが まちがいなく ひとつの意書を

この叡山の麓の一乗寺の居所で

為諸の扉を閉めて開ける

ひらけ ごま！

と